

Ⅱ 学校全体として進路指導・キャリア教育に取り組む校内体制（取組例）

進路指導・キャリア教育を進める上で生徒、保護者への的確な進路情報の提供は大切です。そのために、学校全体で進路指導・キャリア教育の全体計画・年間指導計画の下で取り組むこと、また全教員への最新、かつ正確な進路情報の周知徹底を図るとともに共通理解を図ることが重要になります。

以下は、通知、通達、事務連絡等の進路情報を校内の全教員へ周知徹底するために、計画的・組織的に進めている取組の一例です。

1 3年間を見通した全体計画・年間指導計画

進路指導はキャリア教育の中核であり、また、進路指導の取組とキャリア教育は「教育活動全体で行うもの」とされています。中教審では進路指導・キャリア教育の「4領域（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）8能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・探索能力、職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択能力、課題解決能力）」の考えをめぐる諸課題を克服するために、平成23年1月に「基礎的・汎用的能力（①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力）」として再構成して提示したところです。そこでは、従来の「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換を踏まえた進路指導・キャリア教育全体計画・年間指導計画の見直しが重要となります。

(1) 計画作成のポイント

ア 文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」（平成23年5月）に示された基本的な考え方を基に、学校の全体計画を見直し、学校や生徒の実態、状況に応じ、3年間を見通した進路指導・キャリア教育のねらいを明確にする。

イ 全体計画に盛り込むべき項目を明確化する。（以下は例示）

① 必須の条件として示す事柄

- ・各学校において定めるキャリア教育の目標
- ・教育内容と方法
- ・育成すべき能力や態度<基礎的・汎用的能力>
- ・各教科との関連

② 基本的な内容や方針等を概括的に示す事柄

- ・学習指導
- ・指導体制
- ・学習の評価

③ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考える事柄

- ・学校の教育目標
- ・当該学年の重点目標
- ・地域の実態と願い
- ・生徒の実態
- ・教職員の願い
- ・保護者の願い
- ・校区小学校との連携

ウ 教育課程の編成に当たり、キャリア発達は学校や地域の実態にもよるので、様々な角度から実態を分析し、各学校のキャリア教育の目標を設定する。例えば「生活環境を考慮」「学校規模を考慮」「生徒指導上の問題を抱えている学校の状況を考慮」するなどである。

エ 実践上の配慮事項や指導上の留意事項等を進路指導・キャリア教育を推進していくための基盤として押さえる。

オ 各学年の柱となる活動の系統図や年間計画表を盛り込む。

※系統図・年間計画表の分量が多くなる場合は、全体計画と別ページで示す。

カ 下部に「進路指導・キャリア教育実践のための基盤」を各学校の実態に応じて整理する。

平成〇〇年度 進路指導・キャリア教育 全体計画

〇〇市立△△中学校

キャリア教育の目的 生徒一人一人が、社会の中での役割や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育成する。	学校教育目標 よく学び よく習う 心を耕し 体を鍛える	教育関係法規 日本国憲法 教育基本法 学校教育法 中学校学習指導要領 埼玉県教育課程編成要領 指導の重点・努力点 等
キャリア教育の内容 ○発達の段階に応じたものの見方や行動の仕方の育成 ○自己と社会をとらえ、自分を方向付ける力の育成 ○望ましい勤労観・職業観の育成	目指す学校像 ◇生徒の力を伸ばし、健全な心・体を育む学校 ◇生徒と教職員が誇りをもてる学校 ◇安心安全できれいな学校 ◇家庭や地域と絆を深め、信頼される学校	生徒の実態 ほぼ全生徒が進学を希望しているが、将来に対して目的意識をもって、努力を継続している生徒は少ない。また、自己理解や意思決定、職業観・勤労観の育成が不十分である。
目指す生徒像 1. 夢や志を抱き、自分に誇りをもてる生徒 2. 自ら学び、高めあえる生徒 3. 互いを尊重し、思いやりとまごころある行動ができる生徒 4. 正しい判断ができ、粘り強く取り組む生徒		家庭・地域の実態 ほぼ全生徒の保護者が、生徒を高等学校へ進学させたいと考えている。希望する進学先は、あまり多岐にわたらず、ほとんど近隣の高等学校である。

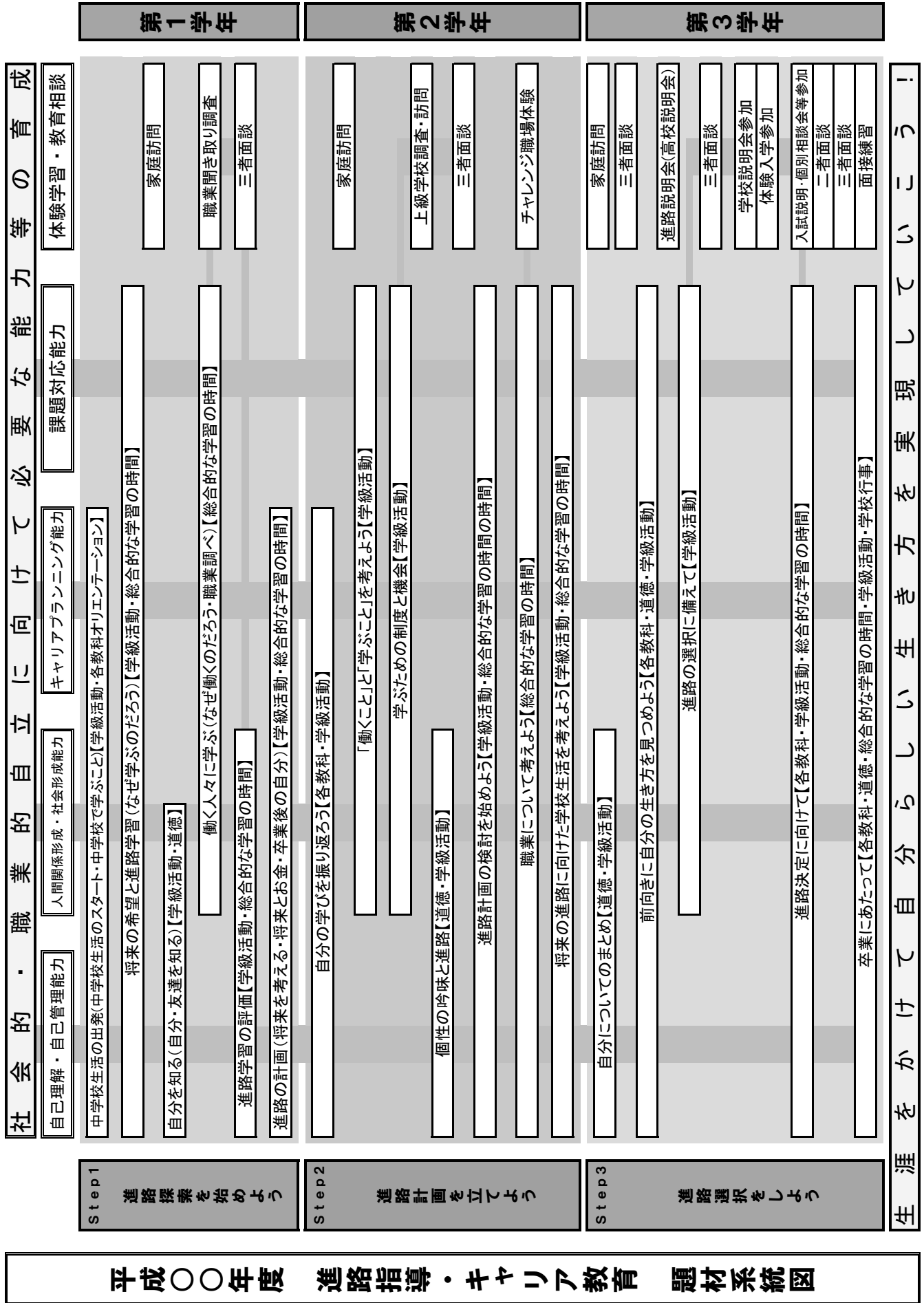
本年度の重点目標 1. 様々な学習場面において、生徒の望ましい自己決定能力を高める指導を行う。 2. 生徒理解を基盤にし、自己実現を図る指導・支援を組織的・継続的に行う。 3. 能力・適性等に配慮し、主体的に進路選択・決定ができるよう指導・支援に努める。 4. 生徒の個性と社会性をバランスよく育てる。
--

進路指導・キャリア教育の全体目標 1. すべての教育活動を通じて、生徒一人一人の伸長及び進路実現を図る。 2. 将来に対する夢や希望のもとに、目的意識をもって日々の生活に取り組む姿勢を養う。 3. 「生きる力」を身に付け、主体的に自己の進路選択・決定ができる生徒を育成する。	各学校において、基礎的・汎用的能力を参考にして具体的な能力を設定し、教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など(または各教科等の共通事項)の中心となるものを記入する。
---	--

育成すべき能力や態度(基礎的・汎用的能力)			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が存在感をもち、楽しく生活できるような学級づくりの工夫 生徒会活動や係活動、学校行事、部活動の在り方を理解させ、積極的に取り組む態度の育成 保護者、高等学校や公共職業安定所等の関係機関と地域社会との連携の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の中で、自己の能力や適性を伸ばしていく能力の育成 学び方やものの考え方を身に付け、自分の生き方を考える力の育成 様々な体験活動を通して、「将来の生き方」を考える態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業、成就感の味わえる学習の実践 働くことの意義や役割、働く喜びを体験できるような啓発的活動を企画・実施 適切な進路相談を通して一人一人の個性が輝く力の育成と指導、助言 よりよい生き方について、様々な角度から考えさせ、適切な価値観を身に付け、望ましい進路選択の態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能の習得 望ましい職業観、勤労観を養うための指導の充実 適切な進路選択や職業生活の適応に資する能力の養成 3年間を見通した進路学習の計画を立て系統性のある充実した指導

各学年の重点目標(別紙 指導内容系統図)		
第1学年	第2学年	第3学年
◎目標をもって学ぶ ・中学校生活の見通しを立てる。 ・学ぶことの楽しさを知る。 ・働くことについて学ぶ。 ・集団の中で自分を活かす。 ・進路の計画を立て	◎自分らしく生きる ・2年生の見通しを立てる。 ・自分の学び方を振り返る。 ・自分の特徴や個性を考える。 ・働く目的や意義を考える。 ・支え合う友達関係をつくる。 ・卒業後の進路について調べる。	◎希望の実現を目指す ・自分の生き方を考える。 ・卒業後の進路を検討する。 ・自分の適性や能力を調べる。 ・進路情報を集め、整理する。 ・自分に合った進路先を選ぶ。 ・励まし合う仲間をつくる。 ・自分の進路希望を実現する。
各学年の柱となる活動や年間計画表を記入する。(または、この部分を別紙にして詳細にすることもできる。)		各学校の実態に応じた、計画・諸行事・学習場面等を記入する。

進路指導・キャリア教育実践のための基盤				
1 時期に応じた進路情報の提供・進路情報の提示 ・「進路だより」の発行 ・進路に関する掲示板の充実(壁面掲示、学級掲示「進路コーナー」の設置と工夫) ・進路資料室の充実	2 全職員の協働体制の確立と充実した研修の実施 ・校内での進路指導・キャリア教育研修の実施 ・進路指導・キャリア教育にかかわる検討委員会の設置	3 保護者会での情報提供や意見交換等の開かれた学校づくり ・進路説明会の実施 ・適切な進路指導を主にした三者面談の実施 ・授業参観、公開授業の実施と学級懇談における進路指導 ・キャリア教育啓発の実施	4 関係機関や地域社会との密接な連携 ・上級学校訪問の実施 ・高等学校合同説明会の実施 ・ハローワークとのキャリア教育の協働 ・中学校区小中キャリア教育連絡会の開催 ・「ふれあい講演会」の実施	5 生徒指導の充実と学年・学級経営の充実 ・共通認識のもとで行うキャリア教育(立志式の設定) ・職場体験学習の充実 ・生活ノートでの個別支援の充実



生涯をかけて自分らしい生き方を実現しよう！

2 校内組織とその役割の明確化

キャリア教育に関する計画を基に、特に中学校ではその中核となる進路指導を具体的に進める場面が多くあります。具体的な指導に当たっては、次のように校内組織を整え、役割を明確化していくと効率的に進めることができるでしょう。その際、留意することは次の3点になります。

- 教員への情報の周知徹底を図るために、進路指導・キャリア教育に係る組織の構成員と役割を明確にする。
- 校内組織は、校長、教頭、進路指導主事、主幹教諭、教務主任、各学年進路指導担当、(学年主任を加えることもある)を構成員とした進路指導・キャリア教育委員会が核となる。
- 進路指導・キャリア教育委員会から、生徒個々の卒業後を見据えた具体的な指導の在り方を検討していく調査書等作成委員会、進路検討委員会などの組織を設ける。

(1) 進路指導・キャリア教育委員会の下部組織と構成員

- ア 調査書等作成委員会…進路指導・キャリア教育委員会構成員＋3学年担当者
- イ 進路検討委員会(進路先の確認)…進路指導・キャリア教育委員会構成員＋3学年担当者
＋不登校生徒対応の教育相談主任又は養護教諭

(2) 各委員会の役割及び活動

ア 進路指導・キャリア教育委員会

- ① 進路指導・キャリア教育全体計画、年間指導計画・活動計画の作成と実施に関すること
- ② 学校内外の進路指導上の行事等の企画、運営の検討及び連絡調整に関すること

イ 調査書等作成委員会

- ① 埼玉県公立高等学校入学者選抜実施要項の確認と教員への周知徹底、情報提供に関すること
- ② 調査書記入の内容の確認に関すること

ウ 進路検討委員会(進路先の確認)

3学年の全生徒が自らの意志と責任において選択・決定した進路先を、全委員でその生徒の興味・関心、能力・適性や家庭状況など多面的に検討する。委員会の検討を受け、担任は生徒、保護者が希望する進路先について、情報提供を行うとともに、客観的な資料に基づき合格の可能性などのアドバイスを行う。

3 キャリア教育の小中連携、高等学校での進路指導・キャリア教育について(参考)

中学校において進路指導・キャリア教育を進める上では、児童生徒の長期的なキャリア発達を支援する視点に立って小学校及び高等学校におけるキャリア教育を視野におさめ、各学校と連携を図ることが大切です。参考となる取組を紹介します。

(1) キャリア教育の小中連携(深谷市の「こころざし科」)

第80回中教審初等中等教育分科会(平成24年7月)では、小中一貫教育の効果として「不登校出現率の減少」「規範意識の向上」「自尊感情の高まり」を挙げています。これは、児童生徒のキャリア形成にかかわる重要なものです。

深谷市教育委員会では、これを受けて独自のカリキュラムを作成し、「0歳から15歳までを一貫して育てる」をキーワードにして、保・幼・小・中・高のなめらかな接続を目指した様々な施策を行っています。その一つが小中一貫教育の推進です。

小中9年間の学びを連続的に、また自分の生き方を考え、児童生徒のキャリア育成を目指した

系統的・継続的な全体教育計画がその一例です。進路指導・キャリア教育は学校教育活動全体で行うものですが、深谷市の場合、特に「総合的な学習の時間」をベースとして、キャリア教育にかかわる「こころざし科」を設定し、全体計画を作成しています。

「こころざし科」は、郷土に関する学び「ふるさと科」という児童生徒の身近な存在とのかかわりから、課題対応能力をはぐくみ、その過程で自己理解を深め、最終的には自分の生き方につなげようとするものです。

(参照URL http://www.education.fukaya.saitama.jp/?page_id=302 平成28年3月現在)

(2) 高等学校での進路指導・キャリア教育の状況

高等学校の時期は、社会人・職業人として自立が迫られる時期です。社会人・職業人に共通して必要な能力や態度の育成が、教科や科目を通じて行われています。校内体制もしっかりしており、参考にすべき点が多くあります。おおよそ共通するポイントは次の4点です。

- 自己理解を深めるキャリア教育の基礎を学んでいる。(中学校における自己理解、将来への生き方の学習をさらに深める内容となっている)
- 年間指導計画の項目について「各校のキャリア教育の目標」「具体的教育活動」「キャリア教育を所掌する取組」を明確化し、地域性や生徒の実態に即して作成している。
- 体験活動や講演会など、全校生徒にかかわる進路指導・キャリア教育を実施する。
- 各校独自で「進路のしおり」等、就職・進学取組の流れや実績のわかる資料を作成し、配布する。

ア 進学希望の生徒への進路指導・キャリア教育の実践例

- ・ 1年次・・・学習法講座(学習方法に関する指導)の実施、大学見学会による意欲付け、教育実習生懇談会の実施、文系・理系選択相談会の実施
- ・ 2年次・・・希望模試の実施、科目別選択相談会の実施、大学等オープンキャンパスへの参加と報告書の作成、小論文指導の基礎指導
- ・ 3年次・・・校内・校外模試の受験、センター試験説明会、指定校推薦説明会、大学別受験説明会、出願指導と面談、放課後補習の実施

イ 就職希望生徒への進路指導・キャリア教育の実践例

- ・ 1年次・・・進路オリエンテーション、LHRで自己理解を深め将来について考える学習を重点化、インターンシップの実施
- ・ 2年次・・・基礎学力向上の補習、適正検査の実施、就職先希望調査の実施、就職説明会一般常識・マナー講座の実施
- ・ 3年次・・・就職分野別説明会、ハローワーク合同説明会への参加、企業見学会、就職模擬試験・面接練習